1. はじめに

姫野 龍太郎（理化学研究所）

当 WG は 2004 年、それまで活動してきた Grid Computing WG を更に発展させるために模様替えして活動を始めた。この WG 活動の方針として掲げたものは、以下に示すものであった。

活動方針

高速ネットワークを介して多数の分散したコンピュータを連携させ、計算資源，データ，人的資源の共有を図り、スーパーコンピュータの計算能力を実現しようという Grid Computing が注目を集めて久しい。会員間でも、NAREGI，ITBL，VizGrid 等のプロジェクトの発足に伴い、Grid Computing に対する関心がますます高まり、会員それぞれがその活用方法について模索を続けている。また、近年では更に、共同利用機器の有料開放、地方大学のセンター再編など、国内の HPC を取り巻く動向にも注目が集まっている。

SS 研では、これらを背景に、Grid Computing 導入におけるメリットの更なる追求を目的に、成功事例の研究や、各種の動向調査と整理を行う。更にその一環として、2003 年度に構築した UNICORE テストベッドの実施研究も行う。これらにより、会員間の Grid Computing 活用における課題の明確化と解決を図る。

当 WG はこのような方針の下、Grid Computing の動向調査（国内のグリッドプロジェクトや各国の取り組みなど）、具体的な成功事例研究、NAREGI ワークフローツールによるサイエンス Grid 環境での実施研究を行ってきた。

Grid Computing に関わる調査活動は 2004 年度から 2005 年度まで行った。2006 年度は、サイエンス Grid 環境での研究活動の一環として、主に NAREGI ワークフローツールβ版を導入し、その導入状況の報告、検討、情報交換を行ない、これまでの検討結果から NAREGI ワークフローツールβ-Ⅱ版への改善提案を検討するとともに、それら検討の結果を成果報告書に整理する活動を行った。この報告書は、このような活動の成果である。